

## 11

## 一般社団法人 日本駆け込み寺

□公開日時:平成 24 年 7 月 30 日(月)

□相談年度:平成 22 年度

## ■自由に使えるお金がない、経済的DVに悩む妻■

### ～3日に一度、食費として、3千円しか渡さない夫～

夫は子供のお年玉まで、すべてのお金を管理。「私は奴隷じゃない！離婚したい」と怒る妻。そこで、話し合いで見えてきた夫の弱点を猛攻撃！専業主婦の河野さん(仮名・36歳)は、会社員の夫(37歳)と二人の子供の4人暮らし。結婚10年目。

■仮名：河野さん

■年齢：36歳

■性別：女性

■問題：DV

### 【妻を疑い、預貯金額すら教えない夫】

ケチでお金にこまかい夫は、河野さんに、3日に1度、食費として3,000円を渡すだけである。日用品や被服費などを含めた雑費は月2万円以内と決まっていますが、レシートとともに随時報告しなければならない。お金はすべて夫が管理していて、河野さんには自由に使えるお金が一銭もない。さらに、夫は子供のお年玉まで管理する。生活費以外の金の使い道は夫が勝手に決め、預貯金がどれだけあるのか、河野さんは一切知らない。これまで何度か、貯金がいくらあるか聞いてみたが「いくらでもいいだろう」と言って不機嫌になるので、いつしか質問もしなくなっていった。

「私が服などを結婚前に貯めた金で買った」と言えば、「それだって隠し金だ。僕に嘘をつくなんて。夫婦でそんなことあり得ないだろ」と嫌みを言われる。化粧品で認められているのは口紅だけ。洋服はリフォームでしのいでいる。みずぼらしい自分がみじめで涙が出ることもある。それなのにちょっとでも家にいないと、「昼間は何をしているんだ？まさか、出会い系とかやっているんじゃないの」と言い出す始末。河野さんの昼間の行動を疑い、あらぬことを勘ぐるようになった。「ああ、そこまで言われたらもうだめ」と河野さんは、とうとう耐えられなくなって相談に来た。

### 【経済的束縛も立派なDV】

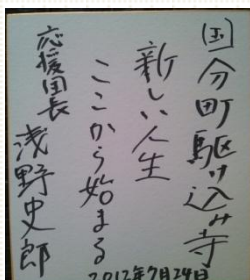
まず、彼女にシェルターに入るようにすすめた。そこで必要となるのが逃亡資金だ。今回の場合、河野さんは夫がお金をすべて管理していて、通帳から印鑑、キャッシュカードまで全部握られているから1万円も持っていない。でも唯一、月末に、家賃を払うためにキャッシュカードが与えられる。残高はだいたい20万～30万円はある。その月の月末に、その金を持って、彼女はシェルターに逃げた。

後日、夫から連絡があり、言い分を聞いてみると、「妻には金銭的な不自由は何にもさせてない。満ち足りているはずだ」「将来何がわからない。50歳になったら旅行にでも行けるように老後のことを考えてやっていることだ」と主張した。「妻は与えられたお金でのやりくりを考えればいだけなのだから、とても楽なはずだ」などと、自分を正当化することばかり言う。「子供を作るのも計画的か」と聞いたら「いちおう計算どおりにはなっています」何でも計画を立てたいのだ。私は呆れてしまった。私は「おまえは嫁さんを信用してないの？何でおまえが財布握っているんだ。そんなことをするのだったら主婦を交代したらいいんじゃないの」と諭したが、まったく聞く耳を持たなかった。

### 【「会社に言うよ」が効く！】

離婚となった場合、この手の男は妻に執着することが多い。河野さんも離婚を望んだが、夫はガンとして応じない。夫の言い分としては、「僕は浮気はしてないし、まじめにこつこつ働いてきた。何が不満なんだ」ということらしい。私は夫に会った。「このままだと、離婚訴訟になるね」「いや、僕は一切承諾しませんよ」。別にいいけど、裁判や調停の呼び出し書類を受け取らなかつたら、あなたの勤務先に送らなければいけない。離婚だけならまだいいけれど、離婚や養育費のことでめめて、裁判になっているなんて会社に知れると、絶対にマイナスになるよね。養育費でもめると、裁判所からの差し押さえの書類もいっちゃんうねえ。あなたが養育費や慰謝料を払わなかつたら、奥さんは当然申し立てを全部するよ。仮処分もするよ。夫は窮地に追い込まれた。

私は、これから起こるであろうことを想定して、100倍にして話す。夫は案の定すぐ納得した。弱点をつけば意外ともろいものだ。2人の親権を放棄し、河野さんに慰謝料と養育費を一括で支払った。月払いにすると、手数料と預金の利子とを比べ、一括の方が得だと思ったようだ。どこまでも細かい男だった。



仙台支部に宛てた浅野史郎さんの心暖まる色紙。

### 【ここが POINT】 .....

暴力をふるわず、浮気もギャンブルもせず、まじめに会社員や公務員をやっている夫の経済的DVは周囲にはわかりにくい。しかし経済的圧迫は相当な精神的圧迫になり、専業主婦の妻は意外と簡単に支配されてしまうものなのだ。相談を受ける側は「節約できていいじゃないですか」などと思ってしまうはいけない。それほど生易しいものではない。

このケースではケチなDV夫から、いかに養育費や慰謝料をとるかが鍵である。DV夫の弱点を見つけたら、そこを一気に攻めて決着をつける。お金があれば母子の生活も順調に始めることができるし、DV夫も経済的DVは「結局は高くつく」ことが少しは身にしみて反省するかもしれない。